

■小泉信三 経済学者・社会思想家。真に勇氣ある自由人として、戦前戦後の思想界で屹立、皇室の近代化にも努めた。

こいずみしんぞう

初の対等条約1888＝ 東京市芝区三田で、小泉信吉の長男に生まれる。父は旧和歌山藩士で、江戸に出て福澤諭吉の塾に学び、のち開成学校教授、横浜正金銀行副頭取、大蔵省奏任御用掛を経て、前年に慶応義塾塾長になっていたが、

帝国憲法発布1889＝ 1歳：

帝国議会始 1890＝ 2歳：父が塾長を辞し、間もなく日本銀行に入ったことから、牛込筑土八幡に転居。

足尾鉾毒始 1891＝ 3歳：さらに父が横浜正金銀行支配人となり、横浜市桜木町に転居となり、

日清戦争始 1894＝ 6歳：本町の横浜学校に入学。父が腹膜炎で死去したため、家督を相続し、

日清戦争終 1895＝ 7歳：芝区の借家を経て、三田の福澤諭吉邸内の一棟に住み、御田小学校に転校後、三田に新築した家に移る。

八幡製鉄始 1897＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝13歳：この年、福沢諭吉が死去。

教科書疑獄 1902＝14歳：慶応義塾普通部2年に編入学、この頃からテニスに没頭し、

日比谷公園 1903＝15歳：全慶応義塾の庭球部正選手になる。義塾グラウンドでの第1回早慶野球試合を観戦。

日露戦争始 1904＝16歳：年少ながら全慶応義塾の庭球部大将となり、早慶庭球戦にも出場。

日露戦争終 1905＝17歳：大学部予科に進学、学問への興味を覚える。

満鉄発足 1906＝18歳：

1907＝19歳：_大学部政治科に進んで、福田徳三らの教えを受ける。

韓国併合 1910＝22歳：_総代で卒業し、同大学部教員となり、

水上瀧太郎らと親交、{三田文学}創刊もあって、文学に関心を深める。

明治天皇没 1912＝24歳：慶応義塾より経済学研究のため海外留学を命ぜられ、ロンドン大学経済科を経て、

大正政変 1913＝25歳：ドイツにベルリン大学に転じて、著名学者の講義を、別に高等商業学校でゾンバルトの講義を聴きながら、

*近代経済学中の重要な体系的著作の初の完訳書として著名な「ジェキンス経済学純理」刊行。

第一次大戦始1914＝26歳：大戦勃発でイギリスに戻り、ケンブリッジ大学に学んだ後、

21ヶ条要求 1915＝27歳：大陸に渡り、スイス・イタリアを旅行。ソルボンヌ大学でリストらの講義を聴き、

民本主義 1916＝28歳：ニューヨーク経由で帰国。_教授となり、阿部泰蔵の三女とみ(水上瀧太郎の妹)と結婚、鎌倉に住む。

本格政党内閣1918＝30歳：長男信吉が誕生。肺を病み、静養のため1年余り大学の講義を休む。

大暴落 1920＝32歳：全快し、大学令が出て、慶大経済学部教授となる。*「社会問題研究」を刊行、思想家の名声確立し、

原敬首相暗殺 1921＝33歳：

水平社結成 1922＝34歳：長女が誕生。_「改造」の「労働価値説と平均利潤率の問題」でマルクス批判、山川均・河上肇らと論争。

関東大震災 1923＝35歳：震災に遭遇し、母の住む三田の旧居に移る。_マルクス経済学者と論争の記録「価値論と社会主義」は著名。

護憲三派圧勝 1924＝36歳：慶応義塾図書館長。麻布本村町に転居、この頃より自宅に学生が話しに集まるようになり、月一回第一木曜日

を定日とする{木曜会}が、以後20年ほど続く。

治安維持法 1925＝37歳：北品川御殿山の新築の家に移転。次女が誕生。

円本時代始 1926＝38歳：「近世社会思想史大要」刊行。_「経済学研究の本領はリカードを中心とする古典派経済学にあり、

共産党事件 1928＝40歳：慶応義塾から派遣され、満州・北支・上海を訪問。_リカード「経済学及課税之原理」訳刊。

世界恐慌 1929＝41歳：「リカード研究」刊。文部省の高等学校向思想問題参考良書第1回「マルクシズムとボルシェヴィズム」。

この間、慶応義塾体育会庭球部長として、早慶戦連勝重ね、「庭球王国慶応」と謳われる。

満州事変 1931＝43歳：「経済原論」刊。

五一五事件 1932＝44歳：庭球部長を退く。

国際連盟脱退 1933＝45歳：「マルクス死後五十年」「師・友・書籍」刊。_慶応義塾塾長となる。

帝人疑獄事件 1934＝46歳：「アダム・スミス、マルサス、リカード」刊。_「リカード研究」で経済学博士。

二二六事件 1936＝48歳：アメリカに行き、ハーバード大学創立三百年祭に参列。アメリカ各地の教育事情を視察して、帰国。

日中戦争始 1937＝49歳：塾長に再選される。教学局参与となる。

第二次大戦始 1939＝51歳：設立された藤原工業大学学長を兼務、

大政翼賛会 1940＝52歳：親友水上瀧太郎が死去。塾生の日頃の心得をまとめた「居常心得」を訓示。

日米開戦 1941＝53歳：長男信吉が慶応義塾大学経済学部を卒業するが、海軍経理学校に入校し主計中尉任用。塾長に三選。

1942＝54歳：長男信吉南太平洋方面で戦死。戦局進展で{木曜会}も解散。

創価学会検挙 1943＝55歳：三田綱町に転居。野球試合「出陣学徒壮行早慶戦」開催。_帝国学士院会員、

年金+総武装 1944＝56歳：勅令により内閣臨時顧問となる。

敗戦 1945＝57歳：_空襲で家を焼失、顔面と両手に火傷を負い、重篤となって病床で敗戦を迎えるも、再起、

新憲法公布 1946＝58歳：母が死去。私家版「海軍主計大尉小泉信吉」刊。東宮御学問参与。塾長に再選されるも外出少なく、

新憲法施行 1947＝59歳：任期満了で塾長を退任。創立九十年記念式典で、ようやく三田に行き、以後知友の往来が再び活発化。

極東裁判決 1948＝60歳：長女が結婚。武者小路実篤・安倍能成らと{心}創刊。「読書雑記」「福澤諭吉の人と書翰」刊。

三大事件 1949＝61歳：次女に婿養子を迎える。「共産主義批判の常識」刊。_東宮御教育常時参与になると、皇室の近代化に努め、

朝鮮戦争始 1950＝62歳：「読書論」刊。

独立回復 1951＝63歳：麻布広尾に転居。社団法人福澤諭吉著作編纂会理事長となる。

メデー事件 1952＝64歳：娘(初孫)夭折した長女とともに受洗。_「平和論」({文芸春秋}全面講和論を批判)、都留重人が反論。

TV放送始 1953＝65歳：皇太子がイギリス女王戴冠式に天皇名代として訪英し諸国歴訪するのに対応するように、妻と_欧米を旅行。

。「日本語」({文芸春秋}新仮名・漢字制限に反対)、金田一京助、桑原武夫が反論。

自衛隊発足 1954＝66歳：_コロムビア大学より名誉博士号を受けて、帰国。

1956＝68歳：慶大名誉教授・学事顧問となる。

1957＝69歳：三田山上に、慶応義塾出身の戦没者の霊慰める「平和来」建立。

インスタントラーメン 1958＝70歳：慶応義塾評議員会議長。創立百年記念に天皇迎え式典。_皇太子と美智子妃との婚約発表まで漕ぎつけ、

美智子妃 1959＝71歳：*ご成婚に至る。東宮職参与。文化勲章受章。

安保闘争 1960＝72歳：アイゼンハワー大統領に招かれた皇太子同妃両殿下の随員として渡米。

全国総合計画 1962＝74歳：慶応義塾体育会創立七十周年記念式典で「スポーツが与える三つの宝」を講演。

_マルクス主義批判家、経世的・啓蒙的名随筆家等として、日本の戦後思想にも大きな影響を与えて、

大学紛争始 1965＝77歳：東京六大学野球春のリーグ戦始球式に登板。名誉都民。

いざなぎ景気 1966＝78歳：「福澤諭吉」刊。心筋梗塞で_没した。

慶大出版会「アルバム小泉信三」、「この人どんな人」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、